

第 16 回気象学史研究会「数値予報の初期の時代に人はどのように 計算をしていたか」開催のお知らせ

気象学史研究連絡会では第 16 回気象学史研究会を日本気象学会 2024 年度秋季大会に
合わせ、11 月 14 日(木)下記の要領で開催いたします。

概要

第 16 回気象学史研究会「数値予報の初期の時代に人はどのように計算をしていたか」
2024 年 11 月 14 日(木) (日本気象学会 2024 年度秋季大会 3 日目) 18:00~20:00
つくば国際会議場 (茨城県つくば市竹園 2-20-3・秋季大会会場) 小会議室 402・Zoom
によりオンライン中継

プログラム：

1. 科学技術計算の変遷 ― HITAC 5020 とその時代を中心に (仮題)
前山和喜 (総合研究大学院大学)
 2. 1960-70 年代の気象庁ではどのように計算が行われていたか (仮題)
古川武彦 (気象コンパス)
- コンビーナ・司会：増田耕一 (立正大学)

主催：日本気象学会気象学史研究連絡会

開催趣旨・講演解題・参加申し込み方法等、詳細は気象学史研究連絡会ウェブサイト
をご参照ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/home/coming/20241114msj>

—

山本哲

気象学史研究連絡会 (日本気象学会)

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>